

周囲から信頼される技術者に憧れて



取得した資格：技術士（建設部門）
資格取得年度：令和4年度

いま じ よう すけ
今 地 洋 佑*

受験の動機・経緯

私の受験動機は上司からのアドバイスでした。当時、北陸新幹線（金沢・敦賀間）のトンネル工事担当者として勤務していた加賀鉄道建設所の所長から「より高いレベルを目指して技術士に挑戦してみたら？」と言われたことがきっかけで、まだ時期尚早と思い込んでいた私を後押ししてくれました。また、JABEE認定されている大学をやっとの思いで卒業し修習技術者を取得しており、将来的には技術士になりたいと漠然とした思いを持っていたことも背景の一つでした。

入社以降、北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）のトンネル工事担当者として倶知安鉄道建設所に勤務するなど、気がつけば入社後8年間はトンネルに関する業務を中心としたキャリアを歩んできました。しかしながら、例えば対外的に地元自治体との協議や地元町内会役員の方への説明の際に客観的に信頼される資格や肩書を持ち合わせておらず、自分自身に大きな自信を持ってないことが実情でした。

「自分自身の土木技術者としての実力を知りたい」ということで、本社への異動が決まった令和3年度に建設部門（トンネル）に初めて挑戦しました。将来的に建設所など現場の最前線で再び働く際に受注者や協議先の方はもちろん、地元をはじめとした一般の方からも信頼される技術者となれるようにという志を持って受験する決意を固めました。

筆記試験に向けて

令和3年度に異動した直後に急ピッチで実務経験証明書を作成しました。私は発注者の立場で山岳工法のトンネルを計4工区担当しており、結果的に「盤膨れ」などインバート部の変状に関する一つの共通テーマとなっていたので、記載する内容はある程度整理できているつもりでした。しかしながら、機構内の先輩技術士に添削してもらおうと、私の文章力の未熟さを痛感し、大幅な修正を余儀なくされたことを今でもよく覚えています。

筆記試験は必須科目と選択科目に分かれます。試験のイメージをつかむため、項目の構成を受験案内や過去問、市販の参考書、日経コンストラクションの『技術士一直線』等で確認しました。

必須科目は当時在籍していた積算課という特性上、日常的に国土交通省等の公的機関の施策を確認しており、『建設通信新聞』や『建設工業新聞』も精読していました。そのため、国土交通白書を確認した際にはある程度の内容を理解していたことは印象に残っています。日経BPの『最新キーワード100』を購入し、休日に気分転換を兼ねて近くのカフェなどに行き、一日2時間程度の短時間集中で熟読し、ノートに書き込み試験本番に使用するキーワードとその内容を頭にインプットしていきました。

一方、選択科目であるトンネルの勉強は、前述のとおり山岳トンネルを中心とした業務経験であったこともあり、現場で使用していた機構の『山岳トン

*独立行政法人 鉄道・運輸機構 建設企画部 業務支援課 担当係長

ネル設計施工標準・同解説』のよく参照していた箇所をさらっと復習した程度でした。

その結果、令和3年度の受験では必須科目は合格点を取れましたが、選択科目は不合格でした。試験終了直後は手応えがあるのかないのかも分からず放心状態でしたが、試験対策をすれば結果はついてくると自分自身では納得のいくものとなりました。

翌年の受験では、必須科目については国土交通白書の内容が大きく変更されていないこともあり、変更点を中心にブラッシュアップしました。選択科目については、無対策では歯が立たないことを痛感したので、『トンネルと地下』を読むなど何らかの形で日常的にトンネルの勉強に接する機会を持ちました。また、日経BPの『合格指南』で試験に合格するためのポイントを把握し、点数を取れる論文を作成できるように対策を重ねました。

『最新キーワード100』の全てを網羅することは非現実的ですので、いくつかのテーマにしばって勉強することをお勧めします。そのためにも日常的にニュースや一般紙を確認するなど時事ネタを把握してヤマを掛けると良いでしょう。

口頭試験に向けて

口頭試験についても『合格指南』を熟読し、本番のイメージをつかみました。事前に想定問答集を作成して頭の中にインプットし、反復練習を繰り返しました。また、技術者倫理については必ず聞かれますので確実に答えられるように準備をしてください。自己研鑽については技術士の試験対策をきっかけに始めたことを触れても良いかと思います。あとは晴れて技術士となった暁の抱負や受験動機もテキパキと答えられるようにしておいてください。メインの実務経験証明書に関する質問については、提出した内容をあらためて読み直し、分かりづらい箇所を補足できるようにすることから取り掛かりました。その際は当時の書類やデータなど確かな数値的根拠をもとにした解答を用意しておくと思いいます。

これから受験されるみなさまへ

きっかけは人それぞれですが、チャレンジしなければ何も起こりません。受験料は決して安くはありませんが、まずは記念受験のつもりで気負わずに一度受験してみて自身の実力を知り、その結果から生まれる悔しさから次こそは…と再挑戦してみたいかがでしょうか？

筆記試験は体力勝負ですので、コンディションをしっかり調整し、前日は1～2時間程度の軽めの復習とし、疲れを残さないことを心掛けてください。本番では、キーワードを混ぜながら決してあきらめずに自身の言葉で原稿用紙いっぱいに記載することが重要です。筆記試験の解答内容については、口頭試験で問われる場合もあるので、終了後は再現論文あるいはキーワードだけでも書き出しておく良いでしょう。

口頭試験は先輩技術士など周囲の方にご協力いただき模擬面接を受け、そのフィードバックをもとに想定問答集や原稿を作成しておくことをお勧めします。面接終了後は聞かれた内容を忘れないうちに近くのカフェなどでメモしておく良いでしょう。そのメモが翌年度以降に技術士試験を挑戦される方への大きなプレゼントになります。

本稿が一人でも多くの方にとって少しでも参考になりましたら幸いです。

【著者紹介】 今地 洋佑 (いまじ ようすけ)

平成25年鉄道・運輸機構入社。北海道局倶知安鉄道建設所および旧大阪社加賀鉄道建設所にて計4工区の山岳トンネルの現場に従事し山岳工法を学ぶ。その後、建設企画部積算課にて積算に関する制度設計や機構内外の窓口、機構内のフォローアップ・研修などを担当。